

.....

1

【体験した事例の直接的な原因について】

.....

1．体験した事例の直接的な原因	
-----------------	--

【体験した事例について】

.....

1．発生日時	平成 18 年 2 月 12 日 午後 5 時頃
2．発生した当時の天候	晴
3．発生した活動現場	屋外：高速道路上 路側帯
4．体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5．事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	死亡していた（させていた）だろう。
6．どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	交通事故、
7．事例体験時の活動	救急、現場活動中期、 []
8．（7の活動中） どのような作業中に発生したか	その他：高速道路上での救急支援活動
9．同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[41]歳、 勤続年数[22]年、 現場経験年数[22] 年、 階級[消防士長]、 同様の活動 [頻繁]、 任務 [車長]
○当事者 B	年齢[29]歳、 勤続年数[4]年、 現場経験年数[4]年、 階級[消防副士長]、 同様の活動 [過去に 1, 2 回程]、 任務 [機関員]
○当事者 C	年齢[]歳、 勤続年数[]年、 現場経験年数[]年、 階級[]、 同様の活動 []、 任務 []
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	

1 1 . 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	B	救急車後方の路側帯にポンプ車を停車させる	
経過 2	A	B に車両後方の安全確保を指示をした。	
経過 3	B	A の指示で赤旗を振り後続車両へ注意を促した	ポンプ車より 100m 後方
経過 4	A	救急支援活動を実施後、ポンプ車へ戻る途中	
経過 5	B	車両後方で安全確保実施中に追突事故発生	
経過 6	追突車両	走行中の車両へ追突後、消防車へ追突	
経過 7	B	追突事故車両の負傷者（運転手）を救護	
経過 8			
経過 9			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

- 事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？
ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できた。たまたま、負傷事故にならなかった。

- ### ○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c . 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d . 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○ 装備・資機材について

e . 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○ 活動環境について

f . 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g . 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h . 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○ 指揮・管理について

i . 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k . 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

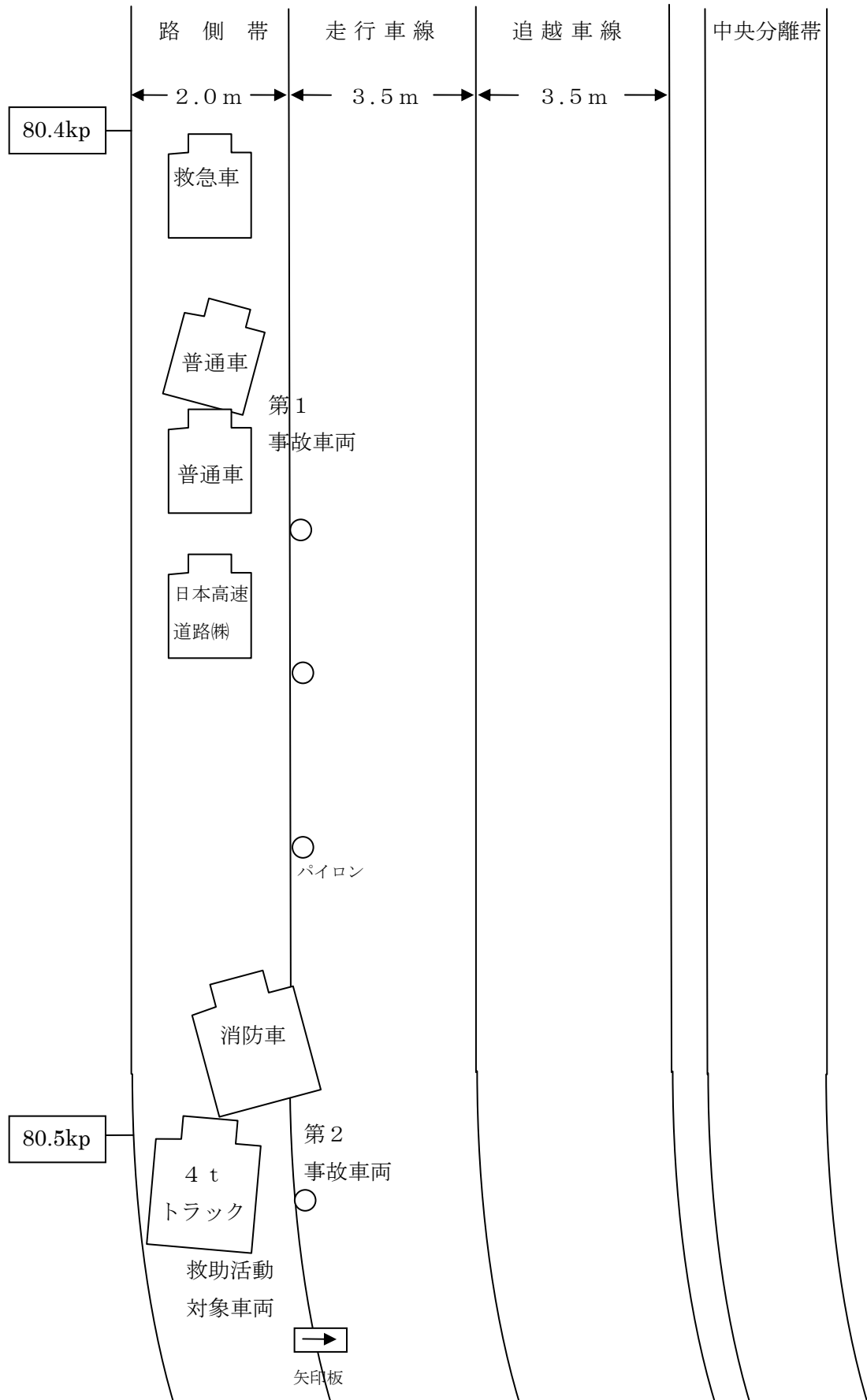
○ その他

l . その他の理由があった。

--

現場見取図

○○自動車道上り車線



○ヒヤリハット事例：高速道路での救急活動支援時に起きた停車中の消防車両への追突事故
(同様の体験は、初めて体験した。)

(07H0031)

・発生日時　：平成１８年２月　午後５時頃

経過	現場の状況	隊員A	隊員B	備考
		車長／消防士長 ・年齢 41 歳 ・勤続 22 年 ・現場 22 年 ・同様の活動:頻繁	機関員／消防副士長 ・年齢 29 歳 ・勤続 4 年 ・現場 4 年 ・同様の活動:過去に1,2回程	
高速道路での救急事案 救急車後方の路側帯にポンプ車を停車させる Bに車両後方の安全確保を指示をした Aの指示で赤旗を振り後続車両へ注意を促した 救急支援活動を実施後、ポンプ車へ戻る途中 走行車線を走行中のトラックが、追越車線を走行中の車両に追突事故を起こし、更に制御不能になり路側帯に停車中の消防車に追突 車両後方で安全確保実施中に追突事故発生 追突事故車両の負傷者（運転手）を救護 ポンプ車より100m後方 消防車がなければ救急隊も事故に巻き込まれていた可能性があった				

◎ヒヤリハットが起きたのはどうしてだと思うか？また、どうして負傷事故に至らなかったか
○直接的な原因：（記載なし） ・危険情報を把握、予見できた。 ・たまたま、負傷事故にならなかった。
◎ヒヤリハットが起きた背後要因 （記載なし）